



平成19年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年7月28日

上場会社名 株式会社キョーリン

(コード番号：4569 東証第一部)

(URL <http://www.kyorin-gr.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 荻原 郁夫

責任者役職・氏名 執行役員経理部長 伊藤 洋

TEL：(03) 3293-3420

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (内容)
 1. 棚卸資産の实地棚卸の省略 : 帳簿棚卸によって算定しています。
 2. 法人税等の計上基準 : 一部簡便的な方法を採用しています。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成19年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成18年4月1日～平成18年6月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第1四半期	18,685	—	1,686	—	1,690	—	782	—
18年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
(参考)18年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19年3月期第1四半期	10	51	—	—
18年3月期第1四半期	—	—	—	—
(参考)18年3月期	—	—	—	—

- (注) 1. 18年3月期は、平成18年3月10日に杏林製薬(株)と株式交換を行いました。期末日を連結子会社の支配獲得日とみなしており、財務諸表のうち貸借対照表のみが連結対象であるため、記載しておりません。また、平成19年3月期第1四半期より開示を行っているため平成18年3月期第1四半期は記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当社グループは、目指す企業像である「グローバルな創薬ビジネスをコアとして、信頼をベースとした特色ある複合ヘルスケア企業」の具現化のため、2006年3月10日より株式会社キョーリンを完全親会社とする持株会社体制へ移行し、(株)キョーリンが上場いたしました。よって、当期におきましては前年同期との比較は行っておりません。

当社グループの中核事業が属する国内医薬品業界は、2006年4月に実施された薬価基準の引き下げ（業界平均6.7%、杏林製薬6.3%）など相次いで実施される薬剤費抑制策の進展により市場の拡大が望めない状況にあります。その一方で、世界的なレベルでの新薬開発競争によって研究開発費は高騰の一途をたどっております。

このような状況下、当社グループは2006年度の経営方針として「キョーリンググループとしての新たな企業価値の創造」を掲げ、重点項目として①グループ企業の総合力発揮、②事業会社の確実な成長支援と更なる新規事業の獲得、③「キョーリン」ブランドのグループ全社への展開と浸透に取り組んでおります。

その結果、当社グループの2007年3月期 第1四半期の業績（連結）は下記の通りとなりました。

売上高	186億85百万円
経常利益	16億90百万円
当期純利益	7億82百万円

（参考資料：杏林製薬㈱の2006年3月期 第1四半期の業績（連結））

売上高	173億12百万円
経常利益	30億52百万円
当期純利益	19億42百万円

販売の状況につきましては、以下のとおりであります。

① 医薬品事業

国内における新医薬品は呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科に重点化するFC（フランチャイズカスタマー）戦略、卸店政策の強化を重点的に推進し、最大限の販売力発揮に努めました結果、142億85百万円の売上を計上いたしました。主要製品では、呼吸器疾患系薬剤であるロイコトリエン受容体拮抗剤・気管支喘息治療剤「キプレス」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」が順調に推移しました。一方、活性型ビタミンD3製剤「ロカルトロール」、胃炎・胃潰瘍治療剤「アプレース」は前年を下回る実績となりました。

ジェネリック医薬品（後発医薬品）の売上は、2005年5月に子会社化しました東洋ファルマー（株）を主体とし12億72百万円となりました。

海外新医薬品では、広範囲抗菌点眼剤「ザイマー（導出先；米国アラガン社）」につきましては、現地売上が前年に引き続き順調に推移しました。一方、広範囲合成抗菌剤「テクイン」におきましては、導出先であるブリストル・マイヤーズ スクイブ社が、商業的な理由から米国をはじめとする諸外国での販売を中止する方針を本年4月に公表し、販売各国での当局対応を既に行っており現地売上及び原末輸出が前年を大幅に下回った結果、海外新医薬品の売上は12億72百万円となりました。

② ヘルスケア事業

一般用医薬品では、主要品である哺乳ビン・乳首消毒剤「ミルトン」が前年比マイナスとなりましたが、2005年5月に子会社化した東洋ファルマー（株）の一般用医薬品等の売上が貢献し、11億32百万円の売上となりました。化粧品他では、2005年6月に100%子会社化し連結対象子会社としましたドクタープログラム株式会社の売上は4億63百万円となりました。

③ 販売促進・広告の企画制作

販売促進・広告の企画制作事業では、売上高2億39百万円の実績となりました。

研究開発の状況につきましては、感染症、免疫・アレルギー、代謝性疾患に研究領域を重点化し、資源を集中的に投入し、杏林創薬研究所、米国A c t i v X社、キョーリンスコットランド研究所における日・米・欧3極での世界的な創薬研究ネットワークの構築とグローバル創薬システムの効率的な運用に取り組んでおります。当第1四半期の研究開発費は19億29百万円となりました。

導出品の状況につきましては、千寿製薬株式会社ではアルファガンにおいて緑内障での第Ⅱ相臨床試験（P h Ⅱ；フェーズⅡ）を開始いたしました。

生産面では、新生産体制として野木工場（栃木県）で生産を行っていた製品のうち大量または技術的に高度な製品を効率よく生産する体制を構築するため新たな工場として能代新製剤工場（秋田県）を建設し、本年4月より稼動いたしました。

利益面では、売上原価76億63百万円、販売費及び一般管理費93億35百万円（うち研究開発費19億29百万円）を計上し、営業利益は16億86百万円、経常利益は16億90百万円となりました。また、特別損失として3億91百万円を計上し、当第1四半期の純利益は7億82百万円となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	122,649	94,709	76.7	1,273 37
18年3月期第1四半期	—	—	—	—
(参考)18年3月期	121,353	94,891	78.2	1,275 39

(注) 平成19年3月期第1四半期から開示を始めたため平成18年3月期第1四半期は記載して
おりません。
また、18年3月期の純資産の金額は同期の決算短信（連結）の株主資本の数値を記載して
おります。

【連結キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	4,593	△1,161	△1,481	15,528
18年3月期第1四半期	—	—	—	—
(参考)18年3月期	—	—	—	—

(注) 18年3月期は、平成18年3月10日に杏林製薬(株)と株式交換を行いました。期末日を連結
子会社の支配獲得日とみなしており、財務諸表のうち貸借対照表のみが連結対象であるため、
記載していません。
また、平成19年3月期第1四半期より開示を行っているため平成18年3月期第1四半期は
記載していません。

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

(財政状態)

資産では、主に現金及び預金が14億69百万円、棚卸資産が7億68百万円、投資有価証券が
8億51百万円それぞれ増加しましたが、受取手形及び売掛金が7億95百万円、建物及び構築物
が1億63百万円、機械及び運搬具が3億84百万円それぞれ減少したことにより、前連結会計年
度末と比較して総資産は12億95百万円増加し、1,226億49百万円となりました。

負債では、主に支払手形及び買掛金が16億16百万円増加したことにより、前連結会計年度末
と比較して負債合計は20億93百万円増加し、279億39百万円となりました。

純資産は、947億09百万円（前連結会計年度末の資本合計と比較して1億81百万円の減少）
となりました。

この結果、自己資本比率は76.7%となり、前連結会計年度末より1.5%減少いたしました。

(キャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、45億93百万円の収入であり、この主な内訳は、税金等調整前四半期純利益13億06百万円、減価償却費11億82百万円、仕入債務の増加16億16百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、11億61百万円の支出で、主な内訳は投資有価証券の取得による支出27億51百万円、投資有価証券の売却・償還による収入12億02百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは、14億81百万円の支出で、これは主に配当金の支払13億61百万円によるものです。

この結果、当第1四半期の現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末と比較して19億48百万円増加し、155億28百万円となりました。

3. 平成19年3月期の連結業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	経常利益	当期(中間)純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	35,500	1,800	700
通期	75,600	6,400	3,500

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 47円07銭

[業績予想に関する定性的情報等]

第1四半期は、ほぼ当期計画に沿った業績で推移しており、2006年5月15日に公表いたしました中間期および通期の業績予想につきましては現段階で変更はございません。

1. (要約)四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当四半期末 (平成18年6月30日現在)		平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		増 減 金額	(参考:杏林製薬(株)連結) 前年同四半期末 (平成17年6月30日現在)		
	金額	構成比	金額	構成比		金額	金額	構成比
(資産の部)		%		%			%	
I 流動資産								
現金及び預金	16,063		14,593		1,469	12,064		
受取手形及び売掛金	25,957		26,752		△ 795	26,254		
有価証券	111		111		0	1,311		
棚卸資産	14,535		13,767		768	13,990		
繰延税金資産	2,273		1,823		449	1,940		
その他	2,238		2,724		△ 486	3,059		
貸倒引当金	△ 63		△ 54		△ 9	△ 70		
流動資産合計	61,116	49.8	59,719	49.2	1,396	58,550	48.6	
II 固定資産								
有形固定資産								
建物及び構築物	12,588		12,752		△ 163	8,771		
その他	8,249		8,611		△ 361	10,695		
有形固定資産合計	20,838	17.0	21,363	17.6	△ 525	19,466	16.1	
無形固定資産								
商標権	1,827		2,035		△ 207	2,632		
その他	3,454		3,684		△ 230	3,488		
無形固定資産合計	5,281	4.3	5,720	4.7	△ 438	6,121	5.1	
投資その他の資産								
投資有価証券	29,481		28,630		851	29,329		
繰延税金資産	4,359		4,254		105	4,561		
その他	1,956		2,065		△ 109	2,947		
貸倒引当金	△ 384		△ 399		15	△ 474		
投資その他の資産合計	35,413	28.9	34,550	28.5	862	36,362	30.2	
固定資産合計	61,533	50.2	61,634	50.8	△ 100	61,950	51.4	
資産合計	122,649	100.0	121,353	100.0	1,295	120,501	100.0	
(負債の部)								
I 流動負債								
支払手形及び買掛金	8,206		6,590		1,616	9,957		
短期借入金	740		770		△ 29	661		
未払法人税等	974		2,440		△ 1,465	585		
賞与引当金	1,170		2,328		△ 1,158	1,143		
返品調整引当金	48		43		5	96		
固定資産解体引当金	335		335		—	—		
その他	9,347		5,859		3,487	5,913		
流動負債合計	20,822	17.0	18,367	15.1	2,455	18,358	15.2	
II 固定負債								
社債	270		270		—	270		
長期借入金	789		861		△ 71	962		
退職給付引当金	4,837		4,933		△ 95	4,769		
役員退職慰労引当金	308		489		△ 180	466		
その他	911		925		△ 13	2,766		
固定負債合計	7,116	5.8	7,478	6.2	△ 361	9,233	7.7	
負債合計	27,939	22.8	25,845	21.3	2,093	27,592	22.9	

(単位:百万円)

科 目	当四半期末 (平成18年6月30日現在)		平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		増 減	(参考:杏林製薬㈱連結) 前年同四半期末 (平成17年6月30日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	金額
		%		%			%
(純資産の部)							
I 株主資本							
資本金	700	0.6	—	—	—	—	—
資本剰余金	4,013	3.3	—	—	—	—	—
利益剰余金	88,238	71.9	—	—	—	—	—
自己株式	△ 27	△ 0.0	—	—	—	—	—
株主資本計	92,924	75.8	—	—	—	—	—
II 評価・換算差額等							
その他有価証券評価差額金	1,121	0.9	—	—	—	—	—
為替換算調整勘定	41	0.0	—	—	—	—	—
評価・換算差額等計	1,163	0.9	—	—	—	—	—
III 少数株主持分	621	0.5	—	—	—	—	—
純資産合計	94,709	77.2	—	—	—	—	—
負債及び純資産合計	122,649	100.0	—	—	—	—	—
(少数株主持分)							
少数株主持分	—	—	616	0.5	—	1,069	0.9
(資本の部)							
I 資本金	—	—	700	0.6	—	4,317	3.6
II 資本剰余金	—	—	4,761	3.9	—	949	0.8
III 利益剰余金	—	—	88,256	72.7	—	106,526	88.4
IV その他有価証券評価差額金	—	—	1,181	1.0	—	772	0.6
V 為替換算調整勘定	—	—	42	0.0	—	8	0.0
VI 自己株式	—	—	△ 50	△ 0.0	—	△ 20,735	△ 17.2
資本合計	—	—	94,891	78.2	—	91,839	76.2
負債、少数株主持分及び資本合計	—	—	121,353	100.0	—	120,501	100.0

2. (要約)四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当四半期 自 平成18年4月 1日 至 平成18年6月30日		(参考:杏林製薬(株)連結) 前年同四半期 自 平成17年4月 1日 至 平成17年6月30日		(参考:杏林製薬(株)連結) 平成18年3月期 自 平成17年4月 1日 至 平成18年3月31日	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
I 売上高	18,685	100.0	17,312	100.0	74,054	100.0
II 売上原価	7,663	41.0	5,793	33.5	26,515	35.8
売上総利益	11,021	59.0	11,519	66.5	47,538	64.2
III 販売費及び一般管理費	9,335	50.0	8,589	49.6	38,549	52.1
営業利益	1,686	9.0	2,929	16.9	8,989	12.1
IV 営業外収益	220	1.1	158	0.9	863	1.2
V 営業外費用	215	1.1	35	0.2	387	0.5
経常利益	1,690	9.0	3,052	17.6	9,465	12.8
VI 特別利益	7	0.0	0	0.0	260	0.3
VII 特別損失	391	2.0	32	0.2	1,259	1.7
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,306	7.0	3,020	17.4	8,466	11.4
法人税等	517	2.8	1,077	6.2	3,192	4.3
少数株主利益	6	0.0	-	-	44	0.0
四半期(当期)純利益	782	4.2	1,942	11.2	5,228	7.1

3. (要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区 分	当四半期 (平成19年3月期 第1四半期)	(参考:杏林製薬(株)連結) 前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	(参考:杏林製薬(株)連結) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,306	3,020	8,466
減価償却費	1,182	799	3,646
連結調整勘定償却額	56	—	134
売上債権の増加額(△)・減少額	794	1,080	672
棚卸資産の増加額(△)・減少額	△ 768	△ 2,404	△ 2,121
仕入債務の増加額・減少額(△)	1,616	2,364	△ 1,047
その他	2,833	1,396	△ 6
小 計	7,021	6,256	9,744
法人税等の支払額	△ 2,493	△ 67	△ 152
その他	65	△ 131	957
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,593	6,057	10,548
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出	—	—	△ 620
有価証券の売却(償還)による収入	—	199	399
有形固定資産の取得による支出	△ 196	△ 289	△ 4,010
投資有価証券の取得による支出	△ 2,751	△ 379	△ 3,783
投資有価証券の売却(償還)による収入	1,202	—	4,338
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入・支出(△)	—	△ 2,913	△ 3,170
子会社株式の取得による収入・支出(△)	—	—	△ 589
その他	584	△ 1,204	350
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,161	△ 4,586	△ 7,085
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増加額・減少額(△)	△ 44	—	30
長期借入金の返済による支出	△ 57	—	△ 193
自己株式の取得・売却による支出(△)・収入	△ 19	△ 11	△ 77
配当金の支払額	△ 1,361	△ 668	△ 1,411
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,481	△ 679	△ 1,653
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1	20	81
V 現金及び現金同等物の増加額・減少額(△)	1,948	811	1,891
VI 現金及び現金同等物の期首残高	13,580	11,361	11,361
VII 現金及び現金同等物の期末残高	15,528	12,173	13,252